

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 20 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2012

課題番号：23710307

研究課題名（和文）「アフリカから見た第二次世界大戦期の日本」研究の構築に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Preliminary study for creating a research platform for exploring Afro-Japanese relations during World War II

研究代表者

溝辺 泰雄 (MIZOBE YASU' O)

明治大学・国際日本学部・講師

研究者番号：80401446

研究成果の概要（和文）：本研究は、旧英領西アフリカ(主にガーナ)と東アフリカ(主にケニア)を調査地とし、同地の新聞・出版物の文字メディアから地名や物品までを検討対象として、第二次大戦期の英領アフリカ植民地の人々が如何に「日本」に関する認識を変容させたのかを検証した。その結果、第二次大戦期のアフリカにおける「日本観」の変遷には、植民地当局による検閲を含む宣伝活動が少なからず影響を与えていたことが確認された。

研究成果の概要（英文）：This research aimed at elucidating the way how people in former British West and East African colonies changed their views on Japan and the Japanese Army during World War II through analysing not only local press and colonial pamphlets but also names of places in Africa and Army Museum's collection of weapons of the Japanese Army. It has been confirmed that colonial propaganda activities including censorship by the colonial authorities played a significant role in changing, at least ostensibly, African views on Japan during the Second World War.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究(アフリカ史)

キーワード：第二次世界大戦・日本アフリカ交渉史・アフリカの言論メディア・植民地当局による検閲・日本人抑留者

1. 研究開始当初の背景

報告者は、明治大学国際日本学部専任講師に着任した2009年から2年間、「英領西アフリカの現地新聞の分析を通じた第二次世界大戦期の日本アフリカ交渉史研究」（科学研究費補助金・若手研究[スタートアップ]課題番号21810028、以下、パイロット研究とする）に従事した。このパイロット研究では、第二次大戦期の主として英領黄金海岸（現ガーナ）の現地発行新聞における日本報道の変化とその背景を、植民地当局による<検閲>に焦点を当て分析を進めた。その結果、第二次大戦期の黄金海岸では、情報局を中心に親ナ

チズム(枢軸国)的言論行為及び連合軍の軍事情報報道などに対して厳格に規制がおこなわれ、それが「日本」に対する論調の変化の一因となったこと、新聞用紙が配給制となったことで、出版事業も手がける新聞社は事業の存続のために当局の検閲に「協力的」な姿勢をとったこと、さらに、その一方で当局による検閲は、アフリカ民族主義に関する言論活動に対して比較的寛容で、大戦中も紙上では民族主義運動の宣伝がおこなわれていたこと、を確認した。この研究結果をまとめた論考は、国内外の研究集会で発表の後に、大学院生時より研究上の助言を受けてい

る英国・ロンドン大学のD. キリングレー名誉教授の近著(*Fighting for Britain*, James Curry, 2010)に引用され(同書 p. 78)、南アフリカ・アフリカ社会先端研究センター(CASAS)のK. K. プラー教授の推薦を得て、本研究の実施期間中に同センターの学術誌に掲載されるに至った[雑誌論文(1)]。

パイロット研究の期間中、2008年に米国ラッガース大学で実施された国際ワークショップにおいて知己を得ていた、ナイジェリア大学ンスカ校(以下、UNNとする)のC. C. オパタ講師から、第二次大戦期にナイジェリア南東部のエヌグ州で第二次大戦中に「Japan Road」と命名された街区が現在も地名として残っている旨の情報提供を受け、同氏の協力のもと、直接現地を訪問する機会を得た。

さらに、ガーナ国立公文書館(PRAAD)における文献調査では、同館の1930年代及び40年代の史料目録を一点ずつ全て確認した結果、同大戦期の黄金海岸に捕虜として抑留された3名の日本人に関する文書群(PRAAD [Accra] CS023. 2)の存在を確認するに至った。

このようにパイロット研究を経て、報告者は現地発行新聞の記事分析に加え、文字メディアには表出しない一般の人々の第二次大戦期の日本観やアフリカに抑留された日本人の存在に関する調査・検証の必要性を強く認識し、本研究の実施に至った。

2. 研究の目的

本研究の主目的は、第二次世界大戦(以下、第二次大戦とする)期の英領西及び東アフリカ植民地(主にガーナ、ナイジェリア、ケニア)において、「連合国」の一員として同大戦に巻き込まれた現地の人々が、「枢軸国」の一員として敵対することとなった「日本」に対する認識をいかに変化させていったかを、新聞や公文書及び宣伝文などの文字史料に加え、現地に現存する「第二次大戦期の日本」に関連する物品・地名などの調査・分析を通して跡づけることにある。現地の研究者及び学術スタッフの協力のもと、アフリカを通して「第二次大戦期の日本」を照射する本研究の試みは、本邦の第二次大戦研究及び日本アフリカ交渉史研究に、新たな視座・知見を提供することも目指して計画された。

3. 研究の方法

本研究は、上掲2.に記載のとおり、第二次大戦期の英領西及び東アフリカ植民地における日本観の変化とその背景を、新聞や公文書及び宣伝文書などの文字史料に加え、現地に現存する「第二次大戦期の日本」に関連する物品・地名等の情報、に基づき歴史的に解明することを目的とした。そのために、(1)

第二次大戦期の英領東/西アフリカ植民地における日本観形成に関する各種史料の収集・整理、(2)調査対象国に現存する第二次大戦期の日本に関連する物品・地名等の所在確認及び情報整理、(3)次期研究プロジェクト(第二次世界大戦に関する新たな視座構築を目指した日本-アフリカ間の双方向的な研究)実施のための研究上のネットワーク構築、の3点が調査活動の軸に据えられた。これらの調査・研究活動により収集された史料に基づき研究報告を作成し、国内外の研究集会及び学術誌で成果を報告することも合わせて実施された。

上記(1)～(3)に関連した具体的な研究実施項目は以下の通りである：

(1) 第二次大戦期の英領東/西アフリカ植民地における日本観形成に関する各種史料の収集・整理

(1-i) 第二次大戦期に英領植民地政府が発行した宣伝パンフレット及びラジオ放送原稿の収集・整理

～本研究において、当時の現地の人々の日本観形成に影響を与えたと考えられる、植民地政府が発行した宣伝パンフレットやラジオ放送の原稿は、収集・分析が必須の史料となる。特に後者のラジオ放送は非識字者が過半であった現地社会に直接の影響を与え得る媒体であり、本研究において重点的に収集活動を実施する

(1-ii) ガーナ以外の英領植民地において現地出身者が発行した新聞・パンフレットなどの言論メディアの収集・整理

～(1-i)において収集した植民地政府側の文書が、現地の言論メディアにどのような形で反映したかを検証することは、本研究の中心課題の一つである。報告者はパイロット研究において、黄金海岸で当時発行されていた新聞のほぼ全ての確認を済ませている。そのため、本研究は、比較研究の意味から、同じ西アフリカのナイジェリアと東アフリカのケニアの出版物を主たる調査対象とする。特にケニアの現地新聞は白人入植者が編集・発行を担当しており、アフリカ系と植民地政府の間に位置した-しかし、決して当局と同調していたわけではない-彼らのフィルターからどのように日本が表象されたかを検証することは、本研究の深化を促す。

(2) 調査対象国に現存する第二次大戦期の日本に関連する物品・地名等の所在確認及び情報整理

(2-i) 英領アフリカ植民地に現存する第二次大戦期の「戦利品」に関する実態調査
～ガーナ国立軍事博物館には、第二次大戦期のインド=ビルマ戦線から持ち帰られた日本軍の国旗や火気類などが複数展示されてい

る。当館学芸員の協力を得て、展示品以外の物品の有無や、展示に至った背景などを調査する。また、同じくインド=ビルマ戦線に従軍した他の英領植民地(特に多くのアフリカ人兵士を派遣したシエラレオネ、ナイジェリア、ケニア)にも同様の物品が現存していることも考えられる。そのため、これらの国々でも「戦利品」の有無を確認すべく、実態調査を実施する。

(2)-ii ナイジェリア連邦共和国エヌグ州に現存する「Japan Road」街区に関する調査～本報告書1.に記載した通り、申請者はUNNのC.C.オパタ講師より、第二次大戦期にナイジェリア南東部のエヌグ州で命名された「Japan Road」という街区が現在も地名として残っている旨の情報を得、同氏の協力のもと、2008年に現地を訪問した。その際、実際に現地では正式な地名として「Japan Road」の名前が存在していることを確認することができた。本研究では、その命名に至った経緯について、オパタ講師の協力を得つつ、調査を進めていく。

4. 研究成果

本研究では、上記3.に記載した(1-i)と(1-ii)及び(2-i)と(2-ii)の具体的な研究計画内容に沿って、現地調査を実際した。

研究初年度にあたる2011年度は、(1)の文字史料の収集に関して、主たる調査地であるガーナ共和国において同国公文書館のアクラ本館、クマシ分館に加えてセコンディ分館での調査も実現し、研究対象年代である1930年代から40年代における同国(当時は英領黄金海岸)の政府関係資料における第二次世界大戦時の情報局関連文書の全体像を把握することができた。

さらに、ケニア共和国公文書館における調査においては、戦時中の日系企業関連の不動産・動産の差し押さえ手続きに関する文書群を参照し、特に具体的な情報が記載された極秘文書ファイル2綴(CS/2/7/30: Assumption of Japanese interest in Kenya Archives of Japanese consulate, 1941-53及びAE/3/812: Disposal of Surplus Stores. Japanese reparations secret, 1947)を複写にて入手することができた。

ケニアでの文献調査においては、上記に加え、終戦後まもなく、戦前日本との取引関係のあった現地系商社による植民地当局への取引再開願なども収集することができた。これらは、上記研究目的(1-ii)にとって、極めて示唆に富む史料であり、第二次世界大戦期における英領東アフリカと日本の関係史の解明に重要な情報を得ることができたと言える。

これらの収集史料の分析をおこなった報

告者は、国際研究集会において研究成果の発表をおこなうべく、2012年5月初旬にカナダで開催されたカナダ・アフリカ学会年次大会(Annual Conference of Canadian Association of African Studies)に参加した。ここに於いて報告者は、第二次世界大戦期の英領黄金海岸における現地植民地政府当局による現地新聞(*The Ashanti Pioneer*紙)への検閲の実態と新聞社側の対応に関する研究報告を実施した[学会発表(3)]。同報告は、経営者・編集長とのやりとりを記録した文書に基づき、同大戦期における当局と現地メディアのある種の「互惠の関係」を浮き彫りにしたものであり、今回の報告時に寄せられたコメントを参考に一部修正した原稿は、南アフリカの研究機関の研究誌に掲載された[雑誌論文(1)]。

上記3.の(2-i)に関しては、黄金海岸に抑留された日本人捕虜に関する調査、及び、ガーナ国立軍事博物館(クマシ)に収蔵・展示されている第二次大戦期のインド=ビルマ戦線から持ち帰られた旧日本軍の国旗、軍票、武器・火器類などの調査も実施した。後者に関しては、同館館長のM.O.トゥエネボア=コードウ氏の協力のもと、同館が保有する全ての日本軍関連物品の種類・個数を調査し、同館の展示の意図についても、館長とのインタビューで詳細な説明を受ける機会を得た。この調査結果は、日本アフリカ学会学術大会において報告された[学会発表(2)]。

本研究の期間中、報告者は海外の研究者との交流を積極的におこなった。その中で報告者は、大戦中の日本における「アフリカ観」の変化について頻繁に質問を受けるようになった。そこで報告者は2012年7月、ナイジェリアで開催された国際学会において、戦時下の日本の新聞(『東京日日新聞』)によるアフリカ報道に関する論文を発表した[学会発表(1)]。

この発表に対し、東南部アフリカの軍事史が専門のT.ステイブルトン教授(カナダ・トレント大)から強い関心を寄せられた。氏との意見交換のなかで、ジンバブウェ、ザンビア、マラウィといった東南部地域のアフリカ人兵士に関する史料状況の情報を得た報告者は、2012年の夏にジンバブウェ国立公文書館(ZNA)での史料調査を実施した。そこで報告者は、ビルマ戦線に派兵されていた「ローデシア・アフリカ人ライフル部隊」の兵士が前線から親族に宛てた書簡群(ZNA, RG3|DEF4)を収集した。ここにはビルマ戦線での日本軍兵士についての記述も多く、第二次大戦期の「日本観」の検討にとって重要な史料であることが確認された。

このように、アフリカ側から「第二次大戦」及び「第二次大戦期の日本」を見つめ直すことを目指した報告者の研究は、アフリカや欧

米の研究者との研究上の相互交流のなかで、「日本から見た第二次大戦期のアフリカ」に関する海外の研究者の関心の高さも浮き彫りにした。

この経験を踏まえ、今後はさらに研究の対象を拡大し、アフリカに本拠を置く研究者との交流をさらに強化することを通して、「第二次世界大戦期の日本=アフリカ交渉史」に関する日本=アフリカ間の双方向的研究の可能性を模索していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

(1) MIZOBE, Yasu'o, 'The African Press Coverage of Japan and British Censorship during World War II-A Case Study of the Ashanti Pioneer, 1939-1945-' *Tinabantu: Journal of African National Affairs*, Vol. 4, No. 2, The Centre for Advanced Studies of African Society, South Africa, pp. 26-36, 2012、査読有

(2) 溝辺泰雄、「独立直後のガーナの「蹟き」を生んだ要因に関する予備的考察-「ヴォルタ川計画」に関する財政支援の検証を中心に-」『スワヒリ&アフリカ研究』第23号、大阪大学世界言語研究センター スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室、pp. 128-141、2012年、査読有

〔学会発表〕(計5件)

(1) MIZOBE, Yasu'o, 'Japanese Newspaper Coverage of Africa (and African Soldiers) during World War II-The Case of the *Tokyo Nichi Nichi (Mainichi) Shimbun*, 1939-1945-' , *The 2nd Toyin Falola Annual International Conference on Africa and African Diaspora (TOFAC2012)*, Lagos, Nigeria, 03 July 2012

(2) 溝辺泰雄、「第二次世界大戦期の日本アフリカ交渉史研究-英語圏西アフリカ(ガーナ)に現存する旧日本軍関連の「戦利品」に関する調査の予備的報告-」『日本アフリカ学会第49回学術大会』国立民族学博物館、2012年5月27日

(3) MIZOBE, Yasu'o, 'Gold Coast Press and British Censorship during World War II: A Case Study of the Ashanti Pioneer, 1939-1945', *Conférence annuelle de l'Association Canadienne des Études*

Africaines 2012 (2012年度カナダ・アフリカ学会年次大会), Quebec City, Canada, 04 May 2012

(4) 溝辺泰雄、「アフリカ諸国の脱植民地化と経済成長過程の比較歴史学的研究-独立期西アフリカ・ガーナの事例から」『イギリス史研究会第23回例会』青山学院大学、2011年7月9日

(5) 溝辺泰雄、「第二次世界大戦期の英領黄金海岸に拘留された「日本人」抑留者に関する予備的報告」『日本アフリカ学会第48回学術大会』弘前大学、2011年5月21日

〔図書〕(計1件)

(1) 『ガーナを知るための47章』(高根 務・山田肖子 編)、明石書店、2011年(担当章: 21章「乗り物トロトロは行く、いつまでも、どこまでも」pp. 146-150、34章「17世紀ごろまでのガーナ北からはじまるガーナの歴史」pp. 220-224、35章「奴隷貿易オットバー・クゴアノのたどった道」pp. 225-230、36章「現地エリートの登場ガーナ初の法定弁護士ジョン・メンサ・サーバー」pp. 231-234、37章「皇太后が率いた反植民地戦争アサンテ王国の皇太后ヤァ=アサンテワァと黄金の床几」pp. 235-239)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

溝辺 泰雄 (MIZOBE YASU'O)
明治大学・国際日本学部・講師
研究者番号: 80401446